◆かがみ野俳句会◆

呉須の海老跳ねる大皿夏料理　佐竹　洋子
風鈴に呼び込まれ行く堰の跡　鍵山　和枝
万緑を五臓六腑に朝散歩　佐藤　幸
追ぎし日を音にて思ふ遠花火　利根　弘子
終戦の記憶のひとこま芋雑炊　古川　信子
寝そびれてひとりの世界星月夜　小松　愛子
深病みの足に重たき夏布団　中澤　美晴
友からの元氣の印鮎届く　森本　倢代
百才を土用の丑に宅す母　山崎　鈴子
序の舞に菩薩の化身夏の能　吉田　芳

◆かほく句会◆

ポケットのいつより空し草矢打つ　乾　真紀子
無欲にはなれぬ頑固や夏帽子　奥宮さとみ
山里の夕日もろとも南京切る　久保　貴女
梨積んで盆の大橋渡りけり　久保内鏡子
梅干してしだいに細る己が影　黒岩千英子
草の束枕に憩ふ蝉しぐれ　小松　隆之
射干は靖国の父愛でし花　小松　昇
夏に痩せ風によろける己が影　西本　昶猪
粗品より迷はず団扇選びけり　杉山　春萌
おしろいの窄む真昼の通り雨　前田　秀女
黙黙は農夫の美学油照り　前田　欣一
秋思ふ老眼鏡を拭きをれば　間崎　和代
老農の身をさかしまに田草取る　森本　之子
すぐそこに夕立雲来て降らざりし　山崎かずみ
水神の淵より筧稲の花　山中　晶子
帰省せぬ兄より届く宅配便　山中　瑞輝
厨の灯消して身を置く夜涼かな　山中　明石

◆韮　句　会◆

おくら摘む器用貧乏思ひつつ　吉村　幹愛
七夕に妹ほしいとをさな文字　高橋富士美
食養生今日で五日目胡瓜揉み　岡本かほる
崩落のあとに咲き継ぐ姫女苑　高橋　章
合歓の花村といふものなくなりぬ　西川　常夫
星祭る「おるき」のをるはどの辺り　北村　幸子
蛇塚や樹間の闇を黒揚羽　甲藤　卓雄
母が居さうな一本の夏水仙　野崎　典子
終戦日農道を行くコンバイン　北村　里子
紙ずれの音し夕顔咲き競ふ　山中　弘子
幼子の昼食にお伽ばなしかな　竹内　ろ草

◆土佐山田町俳句会◆

棉の花挿して出納室の午後　前田美智子
赤き旗上がり出てゆく昆布舟　明石　韮生
咲きのこるのうぜん二つ葬の家　安丸　槙子
敗戦忌今朝のチラシの重きこと　馬場　英男
新涼や竹林の径掃かれをり　大石　邦男
奥物部山峡揺るがす揚げ花火　前田　隆明
水甕にいつも西瓜がある帰郷　樫谷　雅道
震洋忌その夜の雷のはげしかり　田村　一翠
敗戦と云はず終戦蝉しぐれ　橋本　昭和

◆投　稿　作　品◆

広報委員会　選

竜王の滝飛沫を肌に森は冷え　高野　和一
蝉時雨過去へ過去へといざなへり　山崎　貴子
夕涼み山田太鼓の底力　小原　景守
稲刈りし後の芳香や道に満つ　小原　子川
蝸牛透明の道曳きて来し　和田　可代
天気図の込み合ってゐる繁藤忌　前田　小夜
病窓の遥か遠くに花火見ゆ　北村千鶴子
人の輪の数珠繰る寺の夏祭り　岡本　朴舟
わが垣を入りてより見ず穴まどひ　千頭　野草
盆踊り踊った余韻持ち帰り　公文多賀子
梅雨曇りいそいそと出かける喫茶店　岡村　和躬

俳句・短歌の募集について

広報「香美」で掲載する、一般の方の俳句・短歌の作品を次のとおり募集しています。

【投稿方法】

▼投稿方法は自由。（ただし、官製ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで五句（首）以内まで）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】

企画課内広報委員会事務局
〒782-8501　香美市土佐山田町宝町1-2-1
（☎53-3114　FAX53-5958）